

病院も「持たざる経営」 三菱HC系、徳洲会の施設取得

2021/12/2 17:48 | 日本経済新聞 電子版



三菱HCキャピタル傘下のファンドが取得する「札幌南徳洲会病院」（札幌市）

三菱HCキャピタル傘下の医療関連ファンド、ヘルスケアマネジメントパートナーズ（HMP、東京・港）は医療法人最大手の徳洲会グループが運営する札幌市の病院施設を取得する。大手病院が不動産を賃借して経営するのは珍しい。全国で病院施設の老朽化が進むなか、病院がファンドを活用して「持たざる経営」に切り替える動きが進みそうだ。

HMPが取得するのは札幌南徳洲会病院（札幌市）や隣接する診療所など計3物件だ。これらはもともと徳洲会が同市内で運営していた病院が、施設の老朽化などに伴い7月に新築移転したもので、HMPは開発事業者で現在の所有者である三菱地所から施設を買い取る。金額は非公表だが計30億円程度とみられる。HMP側は今後、徳洲会から一定の賃料収入を受け取る。

国内の病院の多くは病床数を規制する1985年の医療法改正前に駆け込みで建てられ、築40～50年を迎える。老朽化し、施設の造りが現在の患者のニーズに合わない病院が目立つ。建て替えが必要にもかかわらず、資金不足で対応できない施設も多い。

建て替え後にファンドが買い取る形式をとれば、病院側は資金負担がないまま施設を更新できる。病院は地域に不可欠な施設のため、ファンド側も比較的安定した賃料収入が見込める。HMPは取得した施設を将来、外部の不動産投資信託（REIT）などに売却し、投資資金を回収する。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.